

1.昆虫の飼育

2.戸外に出ると、様々な虫を発見し、観察しているこどもたち。

実際に飼育してみて、より深く研究してみる。

3.令和7年6月～令和8年3月

4.活動の内容

◆準備した物

- ・虫かご・新聞紙・ピルクル容器・ティッシュ・木の枝・昆虫ゼリー

◆活動中の姿とかかわり

・6月初旬に園庭の金柑の木に幼虫を発見し、みんなで育ててみることにした。「幼虫は何をたべるの?」「どうやっとうちするの?」と、不思議に感じるが多かった様子だったが、小さな黒い身体から大きな緑の身体に変化したときがこどもたちの興味関心の始まりとなり、毎朝様子を確認しては拾った葉っぱでエサやりをしようとして献身的なお世話をするようになった。



・大きくなった蝶の幼虫を育てるのに背の高い木と虫かごが必要だったので、虫かごを縦に置いて乾燥対策の水分を吸った容器に金柑の木の枝を入れた。日中はあまり活発に動かないが、翌朝虫かごを見ると木の枝の葉っぱが無くなっているの、こどもたちの興味は毎日幼虫に向けられているようだった。



・アゲハ蝶がさなぎになった頃に、つがいのクワガタを観察する機会があり育ててみることにした。アゲハ蝶を育てた経験からこどもたちも昆虫ゼリーの交換や虫かごの掃除にとっても意欲的に参加し、木に登ったりひっくり返ったりと蝶の幼虫とは違う動きをするクワガタに興味津々な様子だった。



その間に一緒に育てていたアゲハ蝶のさなぎが死んでしまい、ぐ死んでしまうことを知ることができた。その経験からこどもたちがより一層虫に優しく触れるようになり、クワガタは2か月程育てることができた。その後死んでしまったクワガタを土に埋め、飼育した後の虫かごを掃除していると卵を見つけたので、幼虫になるまで育てることができた。



5.振り返り：飼育をしている中で、こどもたちの気づきややりとりを記録し、こどもたちと相談しながら新たな材料を用意したり、虫かごの環境を変えてみたり変化のある飼育をすることができた。死んでしまった虫のお墓を作ることで生き物の死を感じることができ、また卵を発見したことで命の誕生にも触れることができた。